

令和7年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 大八木 時広

研究課題名	欧州連合（EU）による対ウクライナ支援と対ロシア制裁の諸様相
研究目的及び 研究概要	<p>1 研究目的 ウクライナ戦争勃発以来、ヨーロッパ諸国、とりわけEUがどのような対ウクライナ支援を行ってきたかを明らかにすること。そのことは戦時下における支援の在り方を考える一助とすること。</p> <p>2 研究概要 2022年以来、広義の対ウクライナ支援の一環として、EUによる対ロシア経済制裁に関して、パッケージごとに分けて分析および研究を進めてきた。今年度はさらに一歩進めて、EUによる対ウクライナ支援全般の研究に着手している。具体的には対ウクライナ向けの軍事、財政、政治的支援を取り上げる。またの対ロシア経済制裁もロシアの国家および経済へ打撃を与えるという意味では間接的ながら一種の対ウクライナ支援ともいえるので研究対象としている。</p>
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>1 研究の進捗状況 2022年以来、経済制裁については先行して研究を進めていたため、今年度は経済制裁以外の諸点の研究を優先している。昨年に引き続き政治的支援の研究を進め、また軍事支援や財政支援の研究にも着手した。とりわけ注目したのが、ウクライナ（軍）に対して本格的な軍事訓練を提供するEUMAMウクライナというプログラムである。</p> <p>2 得られた成果 このプログラムでは、EUがウクライナ側に訓練費用を何段階かに分けて拠出し、実際の訓練は加盟国が引き受けるという分担制であることが判明した。重火器などの装備品等の目立つ支援は加盟国によって行われるが、他方でEUMAMウクライナはEUによる対ウクライナ支援の重要な柱を成していると考えられる。</p> <p>3 今後の課題 今年度の研究では という訓練支援プログラムを取り上げることができたが、いまだ取り上げられていない各種支援プログラムがある。これらを取り上げることによってヨーロッパ、ないしはEUによる対ウクライナ支援の全容を明らかにすることが今後の課題となる。</p> <p>4 研究実績 今年度の研究を踏まえて、論文「欧州連合（EU）によるウクライナへの支援の新展開-EUMAMウクライナを中心に-」を執筆し、『危機管理学研究』に投稿した。2026年3月に発刊された。また今年度の研究を踏まえて、論文「ロシアのウクライナ侵攻への欧州連合（EU）の対応ー市民保護メカニズム（CPM）を通じたEUのウクライナ支援を中心に-」、および「「チームヨーロッパ」の研究ー「チームヨーロッパ」の三つの柱を中心に-」を執筆中であり、下書きはすでに完成済みである。この二本は他学部の紀要へ投稿を予定している。</p>